資料１

第四中学校区（川南地区）の学校統合に係る状況

・人口減少に伴う少子化傾向が続き、令和６年度には**４小学校で複式学級が編制**される見込みである。
　川南地区の義務教育対象人口　　令和　５年度　　１，０８９人
　　令和１１年度　　８１２人**（６年間で２７７人の減少）**
・川南地区の将来的な学校統合を含む教育のあり方を話し合うため、川南地区の各コミュニティ振興会代表と川南地区在住の酒田市議会議員が参加する「川南地区における学区再編（学校統合）に関する意見交換会」を開催し、**川南地区全体での学校統合を推進するべき**であるとの意見で一致した。
・川南地区小学校の小規模化を解消するには、**川南地区６小学校の一括統合**が有効であることから、学校統合に対する地域住民や保護者の意見を把握するため、令和４年１２月から令和５年３月にかけて、川南地区の住民及びＰＴＡ代表者を対象とした説明・意見交換会を開催した。
・令和４年度の説明・意見交換会において学校統合に反対する意見は聞かれなかった。また、**早期の学校統合を望む意見**、第四中学校を合わせて**義務教育学校の設置を望む意見**が複数聞かれた。
・令和４年度の説明・意見交換会の結果を踏まえ、令和５年５月には全住民を対象とした「川南地区学区改編（学校統合）に関する説明・意見交換会」を小学校区ごとに開催した。ここでも学校統合に反対する意見は聞かれず、**早期の学校統合を求める意見**が多く聞かれた。

○第四中学校区（川南地区）に係る会議等の開催状況

年度	月日	会議名	場所	人数
令和４年度	７/８	川南ＰＴＡ会長会	浜中小学校	７人
	９/２８	地域の教育を考える懇談会【黒森コミュニティ振興会】	黒森コミセン	１９人
	１１/２８	川南地区における学区再編(学校統合)に関する意見交換会	酒田市役所	１１人
	１２/２３	説明・意見交換【宮野浦学区コミュニティ振興会】	宮野浦コミセン	１６人
	１２/２７	説明・意見交換【新堀コミュニティ振興会】	新堀コミセン	２３人
	１/１３	説明・意見交換【浜中小学校ＰＴＡ】	浜中小学校	１６人
	１/１３	説明・意見交換【広野コミュニティ振興会】	広野コミセン	２２人
	１/１７	説明・意見交換【広野小学校ＰＴＡ】	広野小学校	４人
	１/２０	説明・意見交換【浜中学区コミュニティ振興会】	浜中コミセン	１５人
	１/２０	説明・意見交換【黒森小学校ＰＴＡ】	黒森小学校	約３０人
	１/２０	説明・意見交換【宮野浦小学校ＰＴＡ】	宮野浦小学校	１５人
	２/３	説明・意見交換【新堀小学校ＰＴＡ】	新堀小学校	約４０人
	２/１７	説明・意見交換【十坂小学校ＰＴＡ】	十坂小学校	約３０人
	３/１４	説明・意見交換【十坂コミュニティ振興会】	十坂コミセン	１６人
令和５年度	４/２８	説明・意見交換【第四中学校ＰＴＡ】	第四中学校	４人
	５/１８	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【黒森地区】	黒森小学校	３２人
	５/２３	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【十坂地区】	十坂小学校	２９人
	５/２４	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【広野地区】	広野小学校	３２人
	５/２５	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【浜中地区】	浜中小学校	２０人
	５/２６	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【新堀地区】	新堀小学校	２６人
	５/３０	川南地区学区改編(学校統合)に関する説明・意見交換会【宮野浦地区】	宮野浦小学校	３２人

○第四中学校区（川南地区）の学校統合に対する意見（まとめ）

- 川南地区全体での学校統合を推進する必要がある。
- 統合についての理解は深まっているので、統合校の設置場所や通学方式など、もっと踏み込んだ内容の説明をしてほしい。
- 現状のままで良いとは思わない。６校一括統合、小中一貫教育、義務教育学校にしていくことが大事だ。
- 合併に正解はないが、今の情勢を見れば川南は１校という雰囲気だと思う。
- 学校統合と合わせて小中一貫教育や義務教育学校を取り入れた新しい教育方針を打ち立てることを前面に打ち出して説明してほしい。
- 学校統合に賛成。自分の子どもは通えないかもしれないが、孫の世代のことを考えて判断するべき。
- 統合まで時間がかかると、在学中の子どもたちが通えない。もっと早く統合を進めるべき。また、学校統合が完了するまでの間も、現在の学校の不具合箇所は修繕してほしい。
- 中学校も生徒数が減少していくので、中学校を単独で維持するより小学校と統合して義務教育学校にする方がいい。
- 学校統合に向けた動きが遅い。もっと早くしてほしい。
- 統合までの間も、各小学校で必要な施設整備はしてほしい。
- 統合後の空き校舎は最低限の修繕をして、利用できるようにしてほしい。学校施設は災害時の避難所として活用できる。
- 学校規模が急激に大きくなることでショックを受けるかもしれないので、ケアを大事にしてほしい。
- 義務教育学校において、６年生の時点で他の小学校と学習内容の進み方にずれが生じることはないか。
- 鶴岡市の致道館中学校(中高一貫校)への進学で他の小学校と比べて不利になることはないか。

　⇒義務教育学校は制度上柔軟な面もあるが、原則として最初の６年間で小学校の内容を、後の３年間で中学校の内容を取り扱う。中高一貫校への進学も問題なくできる。

- 統合後は多くの小学生もスクールバス通学になると思う。冬季のバス乗降場所の周辺は車道からの　寄せ雪が堆積して歩行が困難なので除雪を徹底してほしい。
- 統合校の学童保育について、学校統合と並行して検討してほしい。
- 統合によって地域から学校がなくなり、人口流出が加速するのではないか。

　⇒バス通学はマイナス要素ではなく、「地元に住みながらより充実した学習環境を整えた学校に通学できる」というイメージにつながると考えている。将来的に、義務教育学校への入学を目指して他地域から第四中学校区への移住も期待できるのではないかと考えている。

- 統合校の設置場所の案はあるのか。

　⇒津波浸水の危険性など様々な条件を踏まえて検討している。最終的には学校設置者である市の責任で決定する。

- 市内全ての中学校区で義務教育学校を導入するのか。

　⇒現段階では第四中学校区のみを対象として考えている。それぞれの地域特有の事情もあるため、他の中学校区で性急に義務教育学校を設置しようとは考えていない。

- 義務教育学校という理想像はわかるが、財政上の観点からも夢物語にならないようにしてほしい。

資料２

写

酒教管発第１１２４号
令和５年６月２３日

酒田市小・中学校学区改編審議会
会長　加　藤　博　之　殿

酒田市教育委員会
教育長　鈴　木　和　仁

酒田市立学校の適正配置について（諮問）

酒田市小・中学校学区改編審議会条例第２条の規定に基づき、下記の事項について諮問いたします。

記

諮問事項

酒田市立新堀小学校、酒田市立広野小学校、酒田市立浜中小学校、酒田市立黒森小学校、酒田市立十坂小学校、酒田市立宮野浦小学校及び酒田市立第四中学校の統合